

今回、東大見学会に行くにあたって私は様々な期待と不安でいっぱいでした。例えば、一日目の午前中に行った三菱商事の本社ビルは何万人もいる三菱商事の社員ですら、ほとんどの社員の方々が、足を踏み入れることのできず、限られた人しか入ることができない場所だと聞き、私たちが見学に行っているのだろうかと思うほどでした。また、1日目の午後に見学させていただいた等潤病院も事前準備で調べていると、様々な施設や最新の設備などを導入している総合病院で、見学するのがとても楽しみでした。

そんな思いを抱いて臨んだ東大見学会。朝早くに乗った新幹線を東京駅で降りて歩くこと数分。そこには三菱商事の本社ビルがありました。本社ビルはさすがにとっても警備が厳重で、一人一人セキュリティーカードを渡され、とても緊張して会場に入って行きました。

最初に社員の方から三菱商事という会社についてのお話をさせていただきました。簡単に説明すると、三菱商事は総合商社で様々な分野で世界に広く展開しているとのことでした。三菱商事は7つのグループとビジネスサービス部門に加え、その傘下の様々な子会社で構成されているそうです。その後社員の方が自分の経験についてお話になっている際、「三菱商事に入社すると若いうちに海外に行きしばらくそこで働くということになっていて、その後もたくさんの海外出張がある。」とおっしゃっていました。海外出張は様々な困難がある分、とても成長することができるとのことでした。海外は文化も言語も日本とは全然違い、日本の常識は全く通用しないことも多いのに自分が行ったらどうなるのか考えることができませんでした。お話をしてくださった人の中にはモザンビークに行った方もいました。私はモザンビークという国は名前しか知らなかったもので、そのようなところに行くこともあるのだと知って、とても驚きました。

その後のグループごとのディスカッションでは年配の方と若い社員の方のお二人にお話をさせていただきました。お二人がいくつかのことをおっしゃっていた中で特に印象が強かったのは、一つは、グローバル化の中、必要なことは「自国の理解」と「外国についての理解」だということです。外国についての理解はもちろん当たり前のことですが、自国の理解は当たり前のことのように、意外と意識していないとなかなかできていなかったりして、まず自国をきちんと理解できていないと外国の理解をすることなどできないとのことでした。今後、グローバル化が進んで私たちの日常生活でも異文化と接する機会も増えていくと予想される中、私はもう一度自分たちの国について学ぶ必要があると感じました。さらにもう一つ、何をやっていく上でも一番大切なことそれは「誠実であること。信用を得ること。」とおっしゃっていました。なんの仕事をしていても、どのような状況の中でも誠実であることはとても大事なことで、また、信用は一朝一夕でなるものではないし、失ったら取り戻すのは大変だとのことでした。

三菱商事では今後の人生でとても役に立つような様々なお話を聞くことができよかったです。また三菱商事の本社に入り、お話をお聞きして、感じたのは社員の方々が皆とてもいきいきとしてお仕事をなさっているということでした。

三菱商事の本社ビルを出た後、ご飯を食べ、電車を乗り継ぎ午後の見学先である等潤病院へと向かいました。等潤病院は「地域とともに生きる慈しみのトータルヘルスケア」という理念のもとに高度医療から在宅医療や、介護、病気の予防など幅広く質の高い医療を目指して、地域に貢献している病院です。

病院に到着して、最初に院長の伊藤 雅史先生にお話をさせていただきました。最初に等潤病院について説明させていただきました。等潤病院は理念や基本方針にもあるように、地域に密着すること、予防医学から急性期疾患、回復期リハビリテーションまで通してクオリティの高い医療を提供することなどを重視し、実行しています。そのため、病院だけでなく、老人保健施設「イルアカーサ」、常楽診療所、様々な施設が併設され、また、等潤病院にはCTやMRIなども世界最新鋭・最高性能のものを導入していました。

さらに、医師の仕事や医師になるために必要なこともお話させていただきました。例えば、医師になる上で今、高校生のうちにやっておくべきことは、人間としての幅を広げておくこととおっしゃっていました。若いうちに

様々な経験をしておくことは一見関係ないように思えても、その後の人生を豊かにしてくれる上に、医師として働くとしても、それは必要なことだとのことです。また、患者さん本人やその家族に病状を説明する際に気をつけていることとして、たとえどのような状況でも、できる限り真実を伝えることとおっしゃっていました。医師は人と接し、さらに患者さんの命を預かる仕事なので、患者さんやその家族との信頼関係をきちんと築くことが治療やその後のケアでもとても重要だとおっしゃっていました。

他にも、医師として必要な心構えとは、医師をやっていると嬉しいこと、辛いことなど、様々なことがあるが目指すものや目指すことを失わないことだそうです。特に医師は人の命に対する仕事なので、もちろん助けられないこともあり、目指すものを見失ったりすることもあるが、自分の目指すものを強く思い、失わずにやっていくことが大切なことだとのことです。

その後、病院内を見学させていただきました。等潤病院では、高度な医療技術と最新の医療機器の導入をしていて、CTは最新の世界一広い範囲撮影することができるものや、MRIは3テスラMRIにより、分解能の高い・シャープな高画質の画像を得ることができる上に静音装置がついており、見学していてもとても静かでした。さらに、血管造影装置も最新のもので全身の血管の撮影を広範囲かつ短時間で行うことができるそうです。これらの装置を使用しているところを見せていただいたりしたあと、実際に手術室を見せていただきました。実際に、術衣をきて中に入ったので手術中ではないとはいえかなり緊張しました。

今回、等潤病院では、病院の普段は絶対入ることのできないような場所を見学させていただいたり、とても重要なお話を聞くことができよかったです。

二日目に東大のオープンキャンパスへと行きました。東大はまさに日本の最高峰なのでとても楽しみでした。医学部は事前予約が必要だったので、事前予約のいない理学部を見に行くことにしました。そこで驚いたのは一人一人が本当に多岐にわたった様々な分野の様々な分野の研究をしていたことです。とても難しい内容の研究からとても身近な研究、そしてとても個性的な研究、そして何より東大の学生さんたちが自分の研究について、パネルを見ているとやってきて、とても熱心に解説してくれたことです。その人たちは皆楽しそうでさらに目が輝いていました。東京大学は歴史も長く、さすがに日本トップの大学だけあって、施設や、設備などがものすごく、また教授や学生たちも日本トップレベルの人が集まっているだけあってレベルの高さを感じ、とても驚きました。

今回の東大見学会では、普段なら絶対出来ないような経験ができて本当によかったです。二高の代表ひいては宮城県の代表として行くのだからそれにふさわしい自覚を持って行くということでもかなり緊張していました。見学の行く先々でお世話になった、三菱商事、等潤病院、懇談会での二高OB、東大の方々はみな誇りを持ってそれぞれのお仕事や研究をなされていて、そのような方々にお話を聞いたりすることができて本当に貴重な経験となりました。また、全部自分たちでしなくてはならないので、行く前かなり緊張していました。しかし、とても大変だった分、今回の経験を通して得たものは私の人生にとってかけがえのないものになったと思います。最後になりましたがこのような素晴らしい機会を与えてくださった先生方、私たちの見学を受け入れてくれた三菱商事の方々や等潤病院の伊藤 雅史先生、本当にありがとうございました。